

Profile

金田友輝さん・なつみさん

東京都狛江市 ⇨ 邑楽町 (2019年移住)

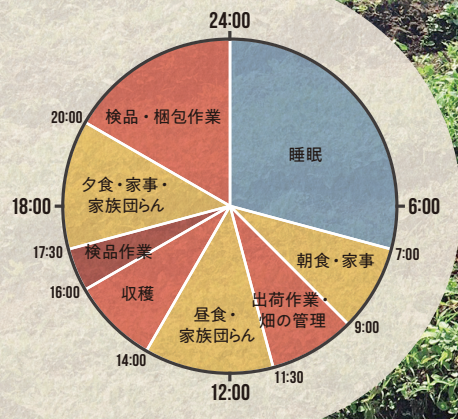
友輝さん・なつみさん夫婦と移住後に生まれた1歳半の息子さんの3人家族。自然豊かなところで暮らしたいと邑楽町に移住。新規就農して自然栽培農法で野菜を育て、ネット販売。緑あふれる環境の中で、仕事も子育ても充実した日々を送っている。

豊かな自然の中で、農家に転身

農業未経験ながら、都内から移住して新規就農したご夫婦。

SNSを駆使して販路を開拓し、お客様と信頼でつながる農家を目指している。

ある日の金田さんの農家ライフ



適度な田舎で

農業をやってみたいと

埼玉県久喜市出身で保育士として都内に勤務していた友輝さんと、埼玉県加須市出身のなつみさんは、結婚後も都内で暮らしていたが、都会の生活に息苦しさを感じ、自然豊かなところで暮らしたいと思うようになった。

そこで、友輝さんの祖母の残した家と畑がある邑楽町への移住を決めた。最初から農家になろうと決意していたわけではなく、「とりあえず祖母の家が空いているので、移住して暮らしながら考えよう」くらいの気持ちだったという。

なつみさんにとっては初めての土地

だったが、気さくに接してくれるご近所の方に、都会とは違う人の温かさを感じて感動した。「時間の流れが都会とは全く違って、ゆったりと流れているように感じ、気持ちにもゆとりが生まれました。のどかな風景にも癒されました」と、邑楽町での暮らしをすっかり気に入った。移住してすぐに庭で家庭菜園を始めたなつみさんは、ご近所の方から野菜作りのアドバイスをもらったり、畑で採れた野菜を交換したりしながら、周りとのいい関係を築いていった。そんな中、保育士時代に食育の重要性を感じていた友輝さんも農業に興味を持つようになった。

そこで、自然栽培をしている農家で約1年間の研修を受け、祖母の残してくれた畑で本格的に農業を開始。農薬や肥料

を使わず、自然の力を生かす農法で、今では約40品目70種類を育てている。冬も降雪せず、イノシシなどの獣害もなく、四季を通して栽培できるこの地域は、むしろ自分たちのやりたい農業に向いているという。



SNSを活用して販売、横のつながりもできた

野菜の販売には主にSNSを活用。少量多品目の季節の野菜をセットにして箱に詰め、全国発送する。また、近くの方には農園まで取りに来ていただく。その他、地元のスーパーの地場産コーナーやマルシェなどのイベントにも出店している。「無農業だからいいということではなく、私たちの人柄を見て、信頼して買っていただくのが一番」と、顔の見える農家を目指す。イベントでは、出店者同士の横のつながりもでき、飲食店で取り扱ってくれることも増えてきた。

価値あるものを提供したいと、無農薬では避けられない虫のチェックなど、検品・梱包に半日はかける丁寧さ。それでも、お客様に喜んでいただき、おいしいという声を聞くことがやりがいになっている。

まだまだ理想と現実と悩むことも多いが、目標は100年後、200年後もこの畑を残していくこと。そして、この事業を継続し、軌道に乗せることだという。

のびのび子育て、近くで観光気分も味わえる

お子さんが生まれてからは、なつみさんは子育てに追われるようになったが、自然の中でのびのび子育てできる環境に満足している。

仕事の合間には、お子さんをベビーカーに乗せて近所を散策するのが金田家の日課だ。「広い公園が近くにあって、安心して子どもを遊ばせられます。自然と触れ合える環境で、いろいろ体験させながら子育てできるのがうれしいですね」と友輝さん。なつみさんも、「近くにある子育て支援センターや図書館はよく利用していて、親しいお友達もできました」という。

公園や支援センターで出会ったママ友は、知り合いのいない土地で初めての子育てをするなつみさんの強い味方で、子育て情報を教わることも多い。小児科も病院も近くにあって、いざというときも安心な上、買い物など日常生活での不便も感じていない。大型ショッピングセンターのある太田市まで出かけてもマイ

カーで約20分。都市部にもほどよい近さで、適度な田舎でのゆとりある暮らしは、かつて「こんなふうに暮らしたい」と思い描いていたものだった。

毎年楽しみにしているのが、夏の風物詩になっている町の花火大会。都会と違って人混みにストレスを感じることなく、間近で観覧できるのがとてもうれしい。時には多々良沼に白鳥を見に行ったり、館林美術館に出かけたり……。実家のある埼玉県も近く、栃木県の足利市にもよく出かける。ここに住むようになって県境を意識しなくなったという二人。「遠くに出かけなくても、近郊だけで観光気分を味わえるのが、この地域の良さですね」と語ってくれた。

1. 子どもが生まれて「食」の大切さをより実感するという金田さん夫妻。「野菜嫌いのお子さんが野菜を食べるようになった」と、うれしい声を聞くことも多い。
2. 季節ごとの野菜セットを箱詰めして販売（写真は夏野菜）。皮ごと安心して食べられ、野菜本来の味がすると評判だ。
3. 農作業が一段落したら、近くの公園まで散歩に出かけるのが日課だという。



ぐんまへ移住して

農業を始めてみたい！

広々とした農地が広がる太田・館林・邑楽地域では、小麦やきゅうり、梨、花き栽培などが盛ん。未経験から新規就農したいなら、まずは「ぐんま新規就農ポータルサイト」※1で情報を集め、「農業フェア」などにも参加して、相談してみよう。また、「邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会」※2でも新規就農者を支援している。

※1 ぐんま新規就農ポータルサイト



※2 邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会

